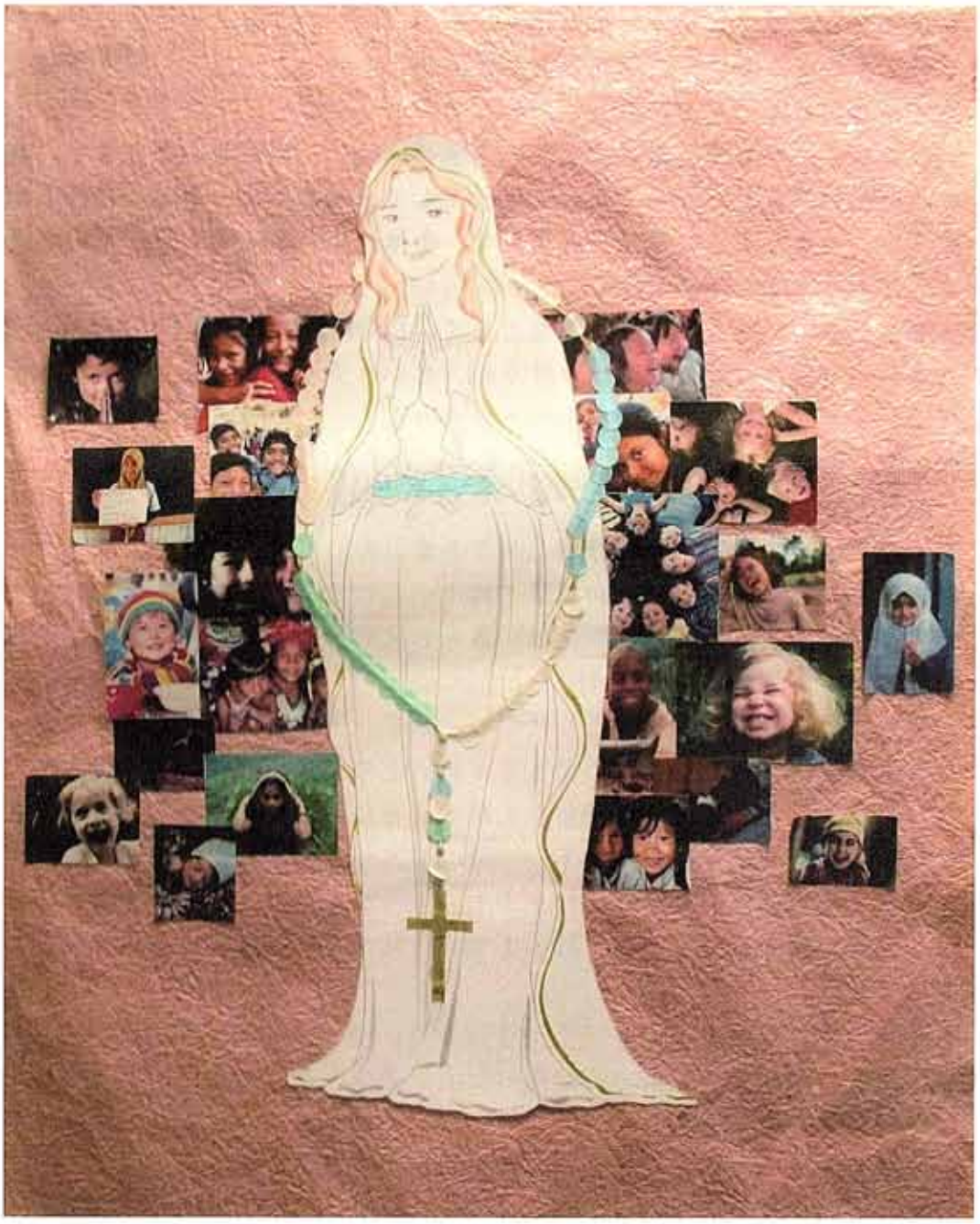
9,10 月号

こみち

カトリック笹丘教会だより
No.0096

命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。（マタイ 7・14）



教会におけるボランティア活動

主任司祭
ペトロ・フランシスコ 遠山満

教会は、ボランティア活動によって成り立っていると言っても過言ではありません。各信徒の自発的な奉仕無くして、教会は成り立ちません。ただ、ボランティア活動と言う時、自発性だけが強調されがちですが、自発性だけを根拠としたボランティア活動は、何かと問題を引き起こすのではないかと思います。そこで今回、ボランティア活動について、もう少し掘り下げて考えてみたいと思います。

ボランティアと言う言葉の元来の意味の一つに、志願兵があります。兵士として志願するという事ですが、兵士として志願すると、軍部の指揮系統に従う事、つまり自らの意志を放棄して、全体の為に奉仕する事が求められるようになります。

もう一つ、ボランティアの意味として、「ボルンタス・デイ」から派生した言葉、つまり「神の意志」を行う人、という意味があります。この場合、ボランティアは、自らの意志を行うと言うより、神のみ旨を行う人という意味になります。

前述しましたように、日本社会において、ボランティア活動という時、専ら、自主性、自発性だけが強調されてきました。その為、ボランティア活動が、教会においても、何処か誤解されているのではないかと思える時があります。上記した二つの解釈からは、自らの意志を行う人という意味は出て来ません。

それでは、私達は、どのようにして、ボランティア活動に対するモチベーションを保っていけば良いのでしょうか。その為に、私達は良く祈って、神様から自分に託されている使命を見出すように致しましょう。神様から自分に託されている使命に気づいていく時、私達の奉仕活動は、神様から派遣され従事する奉仕活動となって行きます。神様から派遣され従事する奉仕活動は、困難に遭遇しても続いて行きます。何故なら、神様が、その責任者だからです。

今月の教区報の中で、アベイヤ司教様は、「教会は霊性を深めないと存在する事が出来ない」と書いていらっしゃいます。奉仕活動も、祈りが無ければ、続ける事は出来ません。祈りの中で、神様から奉仕する為のエネルギーを充填してもらいながら、奉仕活動を続けて参りましょう。

役員会より

2020. 9.30

福岡地区宣教司牧評議会アンケートにご協力をお願いします。

信徒会長 ヨセフ 川原義広 （3班）

アベイヤ司教様は「いっしょに歩もう」と福岡教区に着座されました。今はコロナ禍にありますが、教区の宣教司牧の方向性を探るべく精力的に福岡教区内の小教区を（司教様は健脚で近い教会は徒歩で）訪問し、ごミサでみことばを伝え、信徒と交わる機会をもたれ、信徒の考え、意見に耳を傾けていらっしゃいます。

そして、司教様は私たちに次のような問いかけをなさっています。

１．現代社会の中で、私たちは教会として、何を大事にすべきでしょうか？

２．そのために何が必要でしょうか？

３．あなた自身は、どのような貢献ができますか。

福岡教区の特に大事にすべきことは何でしょうか

・神様は私たちの教区に何を望まれていると思いますか。

・フランシスコ教皇様は何を期待されていると思いますか。

「すべてのいのちを守る月間」のメッセージや、昨年「すべてのいのちを守るため」と訪日された教皇様のメッセージを再読されるもいいでしょう。

２０２７年に福岡教区は１００周年を迎えます。

・それまでどう過ごしていくのか

・当日をどう迎えようとするのか。

教区１００周年を念頭に考えてみるのもいいかもしれません。

アンケート用紙を準備していますので１０月２５日までにご意見をよろしくお願いします。

洗礼式　受洗おめでとうございます！！

8月9日(日)10時ミサ

マキシミリアノ・マリア・コルベ 森 眞(まこと)さん (22班)

初聖体

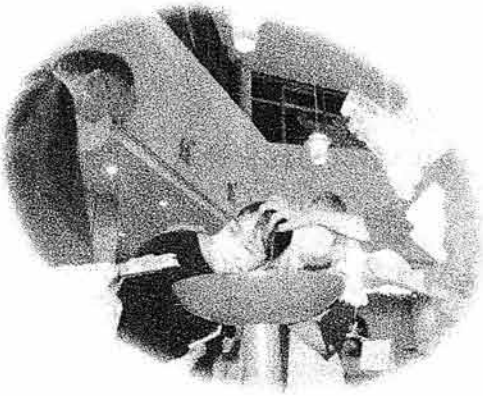
8月15日(土)10時ミサ 聖母の被昇天祝日ミサ

カタリナ・ラブレ 松原 七海(ななみ)さん (22班)

塗油

8月22日(土)19時ミサ 天の元后聖マリア

マリア・レジナ 長田 杉美(すぎみ)さん 長田泰一さんの奥様 (24班)



ろうそくの授与

新しい兄弟姉妹を迎えられたことに感謝し、喜びを分かち合いましょう！！

マキシミリアノ・
マリア・コルベ
森　眞さん

とても嬉しいです。1年半ほど休まずに勉強しました。今日は自分の誕生日でもあります。このような取り計らいをして下さった遠山神父様に感謝しています。

長崎の大浦天主堂がすぐ上に見えるところで育ちました。中高はカトリックの学校でした。社会人になって、ある友人に憧れ、こんな人になりたいと思っていたその人が、カトリックの信者さんでした。ひとつのきっかけだったと思います。勉強してからは、自分の行動を神様がどう見ているのか考えるようになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

カタリナ・ラブレ
松原　七海さん

8月15日の聖母の被昇天の日に受洗しました。たくさんの方に祝福をいただき感謝しています。ありがとうございました。私が笹丘教会にお世話になり始めたのは2年前で、私の祖母が入院していた病院に遠山神父様が偶然いらっしゃったのがきっかけでした。洗礼を受けることを決めてから約1年半、神父様と1対1で勉強をしたことを通して、私の心は穏やかになり、日々の生活や学業が充実しているように感じています。

私の洗礼名カタリナ・ラブレは聖人カレンダーよりいただきました。カタリナは、茨に囲まれた王冠を冠した**イエス・キリスト**の心臓と、王冠を冠し剣の刺さった聖母マリアの心臓を見、マリア様よりこのようなイメージを司祭に伝えてメダイを身につけるようにという言葉を聞いた聖人です。カタリナ・ラブレのことを調べて、知らずに持っていたメダイにこのような意味があることを初めて知りました。カタリナのように純粋な信仰をしていけるように努めていきます。

マリア・レジナ
長田　杉美さん

私が教会に通い始めたきっかけは、結婚が決まり結婚講座を受講した事です。昨年の10月に、この笹丘教会で結婚式を挙げていただきました。

その後すぐに洗礼を受ける為の勉強が始まりました。勉強は興味深く、面白く順調に進んでいき、今年の復活祭の日には洗礼を受ける予定となっていました。しかし、新型コロナウィルスの流行により暫くの間勉強会も中止となり、仕事も在宅勤務になってしまいました。家の中で過ごす事が多くなり、今までとは違う生活を送りながら、この先どうなるのかと不安になる中で、色々と考える事も多く、信仰を持つことが心の支えになっていると実感しました。新型コロナウィルスが終息し、早く元の生活に戻れるように祈っています。

この度、私の誕生日の8月22日に洗礼を受ける事ができとても嬉しく思います。これまで私を支えてくださった方々に感謝します。

信仰のルーツ

ヴェロニカ　川原香里（11班）

私は、主人との結婚をきっかけに受洗について考え始め、その後産まれてくる長男と一緒に受洗出来ればと思い、遠山神父様に洗礼について教えていただき、2014年8月15日に息子と一緒に洗礼を授けていただきました。

ただ、実はキリスト教との出会いは、1995年（平成7年）福島市のカトリックの中学校に入学したことでした。カナダ人の笑顔が素敵で優しいシスター（当時、校長先生）に宗教の授業を教えてもらいました。少しずつ福音を読む箇所が増えましたが、当時は一般的な本の物語を読んでいるようで、深いところまでは考えていませんでした。

それから、高校、短期大学とそのまま進学し、大きなポイントの1つとなったのが、短大1年の時に行ったセントルイス（アメリカ）でのことです。2ヶ月間お世話になった家族はプロテスタントで、毎週日曜日にお祈りするために、あるときは教会で、あるときは空きスペースの部屋でなど、いろいろな場所に行きました。スタイルも自由で、旗やリボンを使う人、踊っている人、手をつなぎながら…それまで、なにも経験がない私にはとても驚きで、その場の雰囲気に圧倒されていました。その中で、形はさまざまでもみんな心は1つになって祈っている姿がとても印象的でした。そこで、祈ることの大切さを間近で見ることができました。私が帰国する前の最後の日曜日には、みんなが私を囲み、1人1人が私に触れながらお祈りしてくれ、とても感動したことを今でも覚えています。

帰国してから短大生活で、シスターたちとお話する機会も増え、修道院に友人と招待されたり、東京の調布にある『友愛の家』での合宿に何度か参加したりしました。心を落ち着かせること、振り返って考えること、そして、それをわかちあうこと。どれもとてもいい経験で、気持ちがすっきりし、また今日から1日頑張るぞという気持ちになりました。時々、洗礼のお話がでてきましたが、そのときの私にはまだ自分のこととは受け入れられずにいました。

それから社会人になり、大きなポイントの2つ目が、2008年に開催されたワールドユースデーinジャパン（山梨県山中湖）でした。友人から、“信者じゃない人でも楽しんでもらいたい”と声をかけてもらい参加することにしました。全国から同世代の人たちが集まって、気持ちや考えをわかちあうことにたくさんの刺激を受け、そのときは相手の話を聞くことでいっぱいでしたが、それでも刺激を受けたことは大きな糧となりました。参加していたシスターに今までの自分のこと、なぜ今ここにいるのかを話したら、“それは聖霊のはたらきね”と言われた時、それまで私は偶然起きていたことと思っていたことは聖霊がはたらいて、今の私に必要なことで、そうしていてくれていたのかもしれないと考えるようになりました。inジャパンから帰ってきて、当時地元で勤務していた印刷会社の社長に（その方もクリスチャンでした）、“なんか顔つきが変わったね”と言われたことを覚えています。

そして、2010年に主人と出会いました。これまでの経験で、私はすんなりと受洗することを受け入れられました。長男と一緒に洗礼を授けていただいたことは、さらに大きな喜びでした。
今まで出会ったアメリカのホストファミリーやお世話になった母校のシスター、ワールドユースデーinジャパンで知り合った方たちとは、今でも繋がっています。忘れずに自分のことを覚えていてもらえることは、本当にとっても嬉しいです。

家族から学び、教えてもらうこともたくさんあります。私はたくさんの経験と出会ったたくさんの人たちのおかげで、今の私がいることを改めて今回気づくことができました。そしてそれこそが、聖霊のお導きなのかもしれません。日々、追われる毎日ですが、過去を大切にしつつ学びや経験を家族と共に続けていきたいと思っています。

新コーナー　私の聖人・好きな聖人

ぼくのせんれいめいは、アシジのフランシスコです。フランシスコは、こころがつよくて、やさしい人です。どうぶつともおはなしができました。
おとうさんとおかあさんは、フランシスコのようにやさしくてつよいこころのひとになってほしいので、ぼくをフランシスコのせんれいめいにしたみたいです。
ぼくは、フランシスコのようにこころがつよくて、やさしい人になりたいです！！

フランシスコ　川原　廣晟（こうせい）（11 班）

ご自分の霊名の由来や、好きな聖人について自由に語るコーナーです。
子供から大人まで、たくさんのご応募お待ちしております。（広報委員）

教会学校、スタート

7 か月ぶりに教会学校が始まりました。初日とあって、たくさんの子供達が参加し、賑わいました！今年は、1 年生 4 名と新たに 2 年生 1 名が仲間入りします。奉仕してくださる先生方、よろしくお願いします。

「レジオマリエ」をご存じですか？

第12回

感染症や熱中症の心配をしながら過ごした厳しい暑さの夏が過ぎ、ようやく秋の気配を感じるようになりました。早朝はひんやりするものの、日中はまだまだ夏かとまごうばかりの日差しが照り付けるので、昨今の温暖化の現実を、文字通り肌で実感させられているような気がいたします。けれど、1日夜、白く輝く中秋の名月を見ながら、やはり秋だなあ、10月になった、ロザリオの月になったなあ、と、しみじみしてしまいました。

レジオも7月9日に短い集まりをした後は、感染拡大を受けて休会していましたが、9月に入り少しずつ減少してきたので、おそるおそる、10月1日に7ヶ月ぶりに集会をいたしました。この7ヶ月間、皆さんの顔を思い浮かべながらお祈りしてきましたが、やはり、同じ場所に集い、共に祈る喜びは格別です。祈っている間は、昨日もその前の日も一緒にお祈りしていたかのような、温かな気持ちになりました…。 今の時点では、以前のように毎週集うことのできる日が来るのはいつになるかわかりません。しかしながら、いつ、また集まることができなくなるかもしれないという、今のような状況の中で共に祈ることは、コロナ以前にも増して、中身の濃い、実り豊かなものになることはまちがいないと思います。

今回は、松永久次郎司教様の『ロザリオのこころ』の、「はじめに」の部分をご紹介いたします。

ロザリオは、「やさしい詩編」とも言うべきお祈りです。遠い昔からいまに至るまで、神の民にはダビデの詩編を使って、神への賛美を歌う習慣があります。いま、信者たちは誰にも憶えられ、いつでも唱えることのできるお祈り「めでたし」(今は「アヴェマリアの祈り」)を150回繰り返しますが、このことは、神をたたえてダビデの150の詩編を歌う神の民の大きな歌声に加わるという、すばらしい意味を持っているのです。 ･･･(中略)･･･

ロザリオにはまた、主の祈りと栄唱があります。主の祈りはキリストが教えてくださった最高の祈りであり、栄唱は天国において至聖三位の神をほめ、絶えまなくたたえる天使の群れの、あのたえなる歌に和する地上の神の民の賛美歌と言うことができます。(略)

そしてロザリオは、マリアのこころを通して救い主キリストのこころにつながることを願うお祈りです。先ずマリアのこころに満ちていた深い信仰と強い愛をこめて、キリストの救いの神秘をたどって行きます。そして、マリアのご保護のもとにキリストの救いに与ることをめざして進みます。そのために、キリストの母であり私たちの母であるマリアによって、キリストの父なる神のいつくしみを祈り求めます。救い主の母によって救い主に至ること、ここにロザリオの祈りの最も奥深い意味があります。

(略)ロザリオのこころはマリアにならい、マリアと共にキリストの救いの神秘に与ることを願う信仰です。･･･(中略)･･･まことにロザリオは、神をたたえる信仰の歌であり、神の子らの信頼をこめた願いのメロディーなのです。 (2020.10.5 聖ファウスティナの記念日に)

～～ 巡礼の旅 の思い出 ～～

― その1 ―

草留 由貴子（10班）

昨年の３月末に31年間勤務しておりました会社を退職いたしました。
以前より長期に渡り、頑張った自分へのご褒美に、オーロラを見に行きたいという夢を持っていました。ちょうどその頃、教会に「イスラエルの巡礼の旅」の企画がありました。それを見て夢のオーロラの事は忘れ、迷うこともなく、その「イスラエルの巡礼」に申し込みました。当初は、一人で参加予定でしたが、色々な幸運が重なり、息子も一緒に行くことになり、初めての親子の海外旅行となりました。又、他の教会から参加される方も、城山教会の平野神父様をはじめ私の母校の聖マリア学院の先輩後輩もいるという事で、不安もなく心強い限りでした。

出発の空港では、搭乗する前に神父様と一緒にお祈りをし、祝福を受けました。

イスラエルの聖地に着いてからは、初日から最後まで、聖書の中にいる様な夢の時間で、あっという間の旅でした。イスラエルの聖地の事は、余りにも印象が強く、ここではお伝えしきれません。旅の記録は次回ご紹介したいと思います。

今回イスラエルの巡礼に参加出来た事は、神様のお導きだと本当に感謝しました。
帰って来てから、ミサの聖書のお話が身近に感じられ、現地イスラエルの風景が頭の中に浮かび、より一層深くお祈りできる感じがしております。
又再び、イスラエルの地を踏む事が夢となりました。

「教会ニュース」のネーミングの件（教会ニュース7，8月号で募集）

ネーミングの募集では予想を遥かに超えた沢山のご応募をいただき、広報委員一同で大変喜び、感謝しております。どれもみな惹きつけられる提案で悩みましたが、慎重に協議させて頂いた結果、『こみち』に決定いたしました。ご協力ありがとうございました。

以下参照

マタイ 7章 13～14節

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。
しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」

命へと続くこみちを、ともに歩んでゆきましょう。

編集後記

コロナ禍の中、行動をかなり自粛している方も多いと思います。そのような中、広報委員会では新たな取り組みをしました。広報紙のネーミング募集。変えないでいい、と思われた方も多かったと思いますが、気持ちが落ち込む時こそ、前向きな行動を。それに応えてくださるかのようにたくさんのご応募をいただきました。中でも、ネーミングとその解説まで記入くださったものは、その熱意に感動して涙が出そうでした。選択は、他の教会と重ならない独自のものということも考慮しました。前向きに進めていく過程、結果、全てに神様のお導きを感じました。この「こみち」が私たち笹丘教会の広報紙として、さらに豊かな分かち合いの場となっていくことを願います。皆さんのご協力に感謝します。神に感謝。

（広報委員　西山淳子 1班）